

400

障屋の日張に横臥して、いささかの涼を取って居る間に、ふと“とうせせ蜻蛉”が目の前に飛んでゐるのを発見した。何十年目か見る誠に珍らしい“とんぼ”だ、遠く子供心と有せ、上野公園や道灌山四つを回想し御愁漫ろするものがあった。流石は大陸にけられて、場所が変る毎に、いろんな物が見られるのも、また戦時副産物とも云へよう。

七月四日(土)

今日は俗に云ふ Fourth of July、米の独立記念日である。新多のよと午年は、独立祭の別名の如き花火は厳禁されたと共に、演説も餘りはいふまいと平だ。敗戦と控へ無理なうらやみもある。正午頃何十数かの禮砲を聴く、兵官らしい気分になる。

(同席者側面観)

おが六の会同席、側面観をやっても良い頃合とあった。現在の同席者は、佐藤君の胸に後計十番名であるが、其の大多數はミソウ時代廿六の会の同席者以外の人達だ。諸君に対する側面観によつて、爾来、鉄條網内に於ける不自由な起居に慣れた同席の動靜が、幾分なりとも窺知し得ると信ずる。且各人の性格は同棲によつて、はつきり分り其処に色々と軽重尊卑の場面が突出して来から自ら興味深しとわけてゐる。

401
341

⑧ 佐田 えき (長崎縣)

先づ我がバラックの入口右手寄より進入って、右側の陣頭にベントにも控へてゐるのが、わが佐田君である。同君は戦前お市にレストラン経営者時と、ちつとも変らぬ。ミゾフでは後援隊に属し、一当合に居たのだが、敢て憂ひといふものを見せぬ。重顔頑太、金内きつての健康者だ。談論の天才、その用語から調子に至る迄、凡そ明治時代の老書生に彷彿せしむる、又毫も屈折せぬ良き身体も動く、まるでウエケインソンにでも来るといふ調子である。会中唯一の読書家もあつて、新雑誌に甚だ丹念であり、現下の情勢と識らんとの知慾旺盛だと見る。相対したにもコンジはうが又会員との協力も、うまいやうな蓋い好漢と言って良し。

⑨ 島橋 渉君。広島縣、山口一經宮。

島橋君は会内で、第二当合の年少者、それでも今年四十歳の壮年である。お市の Assembly Center に残つて来り妻も従つて若いのであるが、会君も亦頗る明朗で、現状に不平や不服を敢て口にしない、健康であり年も若いだけに活動家だ、会員の郵便係りとして書信の手配に精進に染めてゐる。いやめさう僕も親切で、小早に難題をかかぬ月内お性質で皆から好かれて居るのは蓋い争ひの争ひらう。だが、会君は戦後、捲土重來の

402
~~342~~

一大飛躍を試むべき一人に数へられるのだから、今からもっと勉強に費ひ度いものである。

① 丹原浅吉君、岡山縣、日支料理店経営。

同君は、最初暑氣に耐えられて、居々健康と云ふに
事あり、元氣だけは甚だ旺盛ではあるが、餘り頑健
肺とは申されぬ、要するに業を生活に慣れた上、お
齡のせいでもあるだろう。口では相嘗無駄口をきくが、
根が business man としての確りした心があり、人に
悪感を抱かせる様な事は決して言はない。現在の
境遇におする叱咄の声をきかぬ。至って即かて
ある。家族への通信に殆んど毎日の様に、辭書に
頸引きでダブレットと睨め合っている。戦後の在米
生活将来に關する限り、相嘗大さな関心を有る、思
案の样子と窺ひ知られる。これだけに又思慮深いと
も言へる。細事に拘泥しないのは今君のたつ腹
が示すところであり、お市の業務發展が同君のこの性
格と良き相調ってゐるといふ。

（篠目君）
② ミゾラオセエお金の同店者だ。ワバットの農家として
成印者の一に数へられると傳へられる。的はづれの至
つて喋舌家だ。伊勢鐵鋪を残して米屋のガ
ループ中、其後を残った感から、西北郊外唯一
の多年居士でもある。従かも大声と来てゐるから腹の
愛嬌である、先づ夫人を亡く、二人の娘さんが、仰里

403

~~343~~

に拘つてると謂ふ。交換船と待機しつつある一人
だが、今度も屈託の無い甚だ爽やかな顔で居る。
同じ、食の出入毎にドアを猛烈な勢でぶっ放
し、聊か傍若無人振りののは、彼の大和と相俟つて
う年隣家の遠い田舎生活に終始し来つた、随
性的の習性として寛容すべきだ。健康おんけ
に、加ふに多量の農耕で鍛へた好果は、この暑
熱にも拘らぬ。良く動く。蓋し毒の無い見事な
人物だと断ずる可いおれやう。愉快お男に、茨城、
特にお身だ。

⑨ 佐々木左花君、左島、キール掌

六十歳の年長者だ。お腹の太り過ぎの健康體だ。
有名な佛教信者で、むしろ狂信者にてお市田
胞間に早く知られてゐる位である。朝起きお
ベツトのトで、さつと「サムマイダ」を繰り返して居
るのを聴く。淳朴お老人だけに居指とも甚しく
地味である。其の毒お位、物を頼まれては良く動
く。常て、くたらの社を造るの、其熱中、金貨総
動員おと稱して、佐々木先とも促して、さすかに
一時は躊躇いお、救ておびお、いきどろに左
を痛めて、「エラじさんだ」と連懐いんを見たと
き、僕は義憤を憐れお、おれは知られおつた。
録金君にお、僕は高幅の敬意を表し大切
に、度い氣に成つた。キャンプ中の榮棋大将で、使

404
344

も好きだ、大した妙手ではないが、実に熱心である。
夕立の中に悠然と上杉ネと盤に向って動かさず、
場面せんが、相手をものごころ。時々戦争の悲惨
や、戦後の在米生活に就き連日懐を帰らす
あつた、総て深刻さを欠いてゐる。同族の温順な
気質と示唆に満ちる。こんな老人がどうしてFBIの手
に危険視され捕へられたのか皆目了解できない。

⑩ 佐々木俊二君、廣島、洋服洗濯業。

誠心温厚の仁である。跛足であるから万歩不便
に伺はれる。年長者組に加へられ激歩的である。
市佛教会で長く会計役とやつて、直一方
の人物でもある。どんな暑熱でも決して裸体にはな
らぬ。裸に成つたが最後其れよりスリと涼を取り難
く遂に裸体が常習とやつて来、どうにも成ら
ぬ。アッおつてアッとは、今君の村暑哲をアッとか、
僕も亦同感で笑ひてゐる。人のたのむ下駄の
鼻底を箱し。ほこらひ箱ひ或は又アッスをや
つて、流け見の堪へぬが、黙々と汗熱百度
の屋内に~~実情~~実意を予に告ぐ。今息が
目下軍勢中であるが、Fort Sillに在り来訪した。
今君にとっては、現在の如き生活環境は、他の
諸君に比する時は、更に苦痛なるものからと、同
情に堪へない。だが、今君も庄我も同族、家
族的には心配の事はないのは何れである。

405

⑤ 佐々木浩作君 洗髪特 農業。

佐々木君は未だ四十代の身心共に剛健な好漢
見だ。口と腕とを極めて沈着で軽快に力が無い。
むしろ鋭重と評する方が好い。かも知れん、冗談と言
ふ時もいふ事だ。物に拘泥はらず何処の從揚迫
らぬてふ態度は、ほんに男らしい。真面目な女が
惚れるとは斯んな人物かも知れぬ。今君は用婚
早くてあって、随って相手家庭的には悪々しいものな
らうと思ふ。牛は親子の全地はよい。でも更に
其れには觸れず、黙々として立働りつてゐるが、他の
人の存心、お調子に乗らうと限度とちゃんと考へて居
るのは尊敬に値する。寧ろ、若者の稍々いふれば、
現在の境遇と認識せず、恰も自己の意思に反し
ながらも強制的な産備を全儀ふとされ、不平視
にもお入の市気嫌を伺ひ奉るに、いふか如き態度
を思ふとき、敵対人として敵対から束縛不守の
処置を受けつゝある現状と有る必要がある。親切だ。
彼も并ばねに大きな将来を持つてゐる、好漢更に
自ら修養するてゐる。

⑥ 崎村政市 洗髪特、ワザリー草 Way (Yakima)
崎村君は、ヤキマで町人会の会長副会長として廿五
年もやつてゐる。同地方同抱向の有志者である。其
が六次会合の leader として二、三回から推薦を受けると、
一も二もよく受諾し、自ら何れとれとて奔走に突入

406
346

ぬ。だが企君の企長としての態度は、皆らのために
キャンプ生活の改善を圖るのか、それとも米軍命令の
意見と同様のものやつのか、甚しく疑問矣と描出
して思はれるのは、極めて遺憾である。尤も西北帝
令のリーダーは企君が協調いふ事を非常に憤
慨し、尤も其れが僕らの責任であるかの如く痛烈
に攻撃された事から。だが山村君は、その性
質まで温順であり、他人の反感を求めぬか如き言
動は敢て仕掛ないであらうが、企君は所謂 Captain
に事したるを企君も名譽と考へ誇りにも思つてゐる誤
信が禍となつて想像される。僕に言はしめると、企君
は Mr. Sakimura と呼ばれ、其の妻は Mrs. Sakimura
と云ふ方が適切だと考へてゐる。連も些細な
事柄に拘泥し、つまらぬ処に島津の如く、程量と
折のかと思へば、ジャンクと手取り次第に鬼の如き性
癖をもつて居る。傍で見てゐると男といふよりも、善良
な主婦である。要するに企君の夫人は此の丈の
常識には却々氣苦男だと思はれるが、或は令夫人として
自ら手を下さずじむを惜み、夫君が汗水と流して
家計に斡旋するのではないか。要するに企君は官僚
的旧思想と断然一掃する限り、長じてゐるの
尊敬は ~~得~~ 得られまい。でも社会的に相當訓練
を受けてゐる筈だから更に反省して自覚したからた
る将来が期待されるに到つてであらう。川柳も長に
キャンプでの斯界先輩だ。連も駕つた事は曾て

407

347

この収養所に居た時、一人娘から父に送る書面中、われらは今次戦いに Jap を打つ破らねばならぬ、自分は日本人が嫌いだから、彼等と放る父に近い、オウオマ州の何処かへ移住し度いと思つてゐる云々の意味と認めてゐた一事件。全右の氣持と子の教育意向が之によつて窺へると共に、山村を日本人として再検討する要を感じた。

② 小野吉市君、岡山、農業。

全右もシラウから Sill 大島以来の同病者だ。貴性觀念の強い、熱心な基督教徒だ。全右に村には寛心院に其の側面と述べてゐるから、全右には有眼する可とするが、昨今健康と云ひ、實の如く弱かたし、併しそれと恰も不徳であるかの様な感じ、非常に残念がつてゐる。だが積善の家餘慶ありだ、敢て氣にする必要はなし。僕等一同は悪心から全右の健康恢復と誓んで歌ふなり。切角晩に費ひたりのであつて、現状がこの先きどの位續くか判らなし。境通に於ては彼の許巻に於て復讐を切に祈つて居る。

③ 岡崎董太夫、岡山、全右教の師。

全右に於いても既にシラウ時代の一輩をかねてゐる。だが、即ちヒンガストン物動以来の同病は、心から健康勝れなし。高血圧にかゝる解脫が悪い。

409
~~349~~

れの無、好人物である。今君は、市ヤンポに移る
とは、加州組に入り或は山中組組と同室とある
等々、孤獨的に終始して来り、今度漸く共々
オレゴン組に定着するに到つた。シヤトルを中心に
各地に移り新働中、オレゴン・シリヤ
ストーン新働中、戦争突発の揚句、拘引されたのであ
る。未だ四十に満たないで、其の先人達とリ節
と共にいてゐるのは、大變気の毒い思はれる存と氣
がするが、若いものは、是れを苦惱は然らぬ、生
の不満も見せぬ。仄聞かに、今君は杉村氏と
觸れて居るので、バンドとforfeitに儘際在いつ
かの境處だと謂はる。随つて野郎君は是を命
令に接する為の交換料の廻航を待つて
帰門は余儀ない身柄である。

◎ 杉村万吉を、廣島、理髮堂。

杉村君も廿年長者組に属しては、内頭の大氣深
刺だ。家業は一切子息に渡り、むしろ閑散の身であ
るから至つて朗だ。叔父中は理髮をうけ受け、酷
暑に拘らぬ、求むる尊厳には人の頭を刈つて大に力
めてゐる。余中、既やから組の一人でもらつて、濃淡
の旗頭に巻けらる、伏誼を喰つても語をしても、先
づ腰から下より出でぬと云ふ、豪勢振りに、所
謂壯者も受ぐ先青年にから面白。ちかちかの飲
酒家ださうだが、酒がふいふか、苦勞の今君現

410

350

状況、数日前からピークを賣り出したが、三パセント位の
アバウトでは企業には利き目はない。若い娘にで
てもぶつかつたら一日離れず、からかふと遊ぶ先件でも
あるに違いない。だから今内では皆から好かれ、杉村
さんなど愛嬌者として居る。

之れを要する、女々とも奇か六労働の現状は、頃日
各地とうとう廻はされ、鉄條網内ル於ける、あらゆる
拘束、不自由の慣れきつた上ル、家族は退去命令によ
る一定地への収容となり、今では行く処まで切つて了つた
といふ不可抗力の境遇上に於て、漸く威厳にきつ
た結果は、もはや踴躍しやう。所謂 喉え返る
は、執事を失ふの態度と言つて宜い、従つて其処ル
一掃の英着きが出て敢て狼狽と見せやうとて来た
のは、六労働ばかりでは無く、キャンプ全員を通じて
の現状でもある。たゞ、諸君が尚ほ今ねの最要に於
ける認識と覚悟とに於て、更に万全を期さねばなら
ない。即ち将来戦局の発展に伴ひ、本年中に戦争
が終結するか、其れとも長期に亘るか今の処で豫
断は許さないか、もし其ら internet 全部が失
はれるか如き場合らつたに於て、其れに於ける十分
の処置善処を考慮に置く必要がある。僕は
大多數の同胞が斯かる不幸に於て自ら耳を掩ひ
かけて考へを避けるといふ態度が見へるのを遺憾
に思つて居る。現状に慣れ従ひ安寧とにぬる無

411
381

為は採り得ぬ。平和支那後の家族との角会
は最大の目的であるが、直に生活の将来運命が
展開するのであるから、今から十分計画と樹て、肚を
すて置くにけの餘裕と共に頭を働かす事は
最大緊要なと断つのである。唯、日々の戦い
のサレ意味も衰へた、在外居住民としての将来
を深く認識し、各般に渉る政治的及び社会的
の一大要選に刻々注視して、来るべき時代
への更生に必しすべきである。それには吾が同胞
は、たとへば今の如く、あまりにも無智であり居るに
見へる。

(暗夜
管絃樂
第)

六島會の諸君は、どれも温順であり、西島會中の
寧靜では一島靜かたと言はれてゐる。つまり島津會
さし、内内外の大衆も教へたといふだけ、面々
い事は、一島靜かた杉村老から佐田、高橋及び篠田、
丹保の順で、晝間から新舞前までは凡そわが天
下であるが、一島靜後いふと断然舞風後の
靜かた、然るに最も驚きで僕も穩かである。佐々
木庄次郎と筆頭、後二君から流れた及びベッ
ドの順で、崎村老に至るまでは、新舞にのみ最
管絃樂の一切合奏の如く、夫々の声音で暗夜
の鳴動とあるから可笑いものだ。先づ庄次郎
の得のからぬ早口の舞踏と筆頭、後二君の
猛進、ハザリだ。全衆のハザリに至つては
笑ひ天下の珍、平山全衆の大舞と一對たる

412

357

へき代物だ。それは三段構への車い方で最初に
ギョッと鳴り次でギリッとしりき最後は此の諸と合せ
毎と一音階梯と為し、故に回轉し返へいた揚句、終
ては續講と成って、夜中車い立てるのだ。即ち
其音聲は相中ともので猛烈な音では究歌むと
知らぬに形度でさる。氣に始めたら中も舞ら
んまい。蓋し此車いりの優なるものだ。次のベツドは
洪花衣の舞、之れも相中とものに、此車いのねる
毎夜はさ。其次は崎村老の舞だ、之れ
も殆ど毎晩の演おにかゝるに、相中の數に互
らから、不眠症の手合は一晩中聴けるであらう。
殊に庄お光のル反し、崎村老のは、越中舟の顔は
はっきりした走きてる時の會話と些も違はさ。こ
れは越中舟のぬめ要領と将ぬ何処から、位の
程度だ、面白い車いは凡てか演説の調子でさ
る。

イヤ、お金の深夜から早朝にかけての場面は
去々然とあつた。

来週月曜日に米子一將軍が収容所の検閲に来
るの事だ。萬般整頓に置いて失礼の事。下検分
に當り、立、お金の空地と線下か威心さ
いの布宣紙で慌て掃掃をやり始めた、うちやうて
置いた方がよいと思ふが物好き諸君が疑を立
て、お金の顔からうと左往右往するのを見
る外仕方がない。今日の晝飯は芋にいたる、

413
~~353~~

七面鳥を食はしむ。此に食器を改善すべきである。

7 || 14 (H)

昨日、毎日の散歩の結果、背中の工合が宜しい。
 又、意地をたてると昨日はフーエルに續き三度の食
 事をやつた。若干腹工合が悪い、今日のケキンは
 割合に合った。朝から検閲将軍市米町の所の各
 掃討に懸命には怠れない。

七月六日(14)

昨日から雲大にカサミに降雨あり至って冷し。
午後6時に順の姓名に付し第3の coupon book
を配り、早速船中の用也などもお米だけ買ひに
んじ、三那位の程度だから大した事はできないがこれ
でも役に立つ。夜食の祭義菜に crack を生じて、
此の上に使用すれば割れて了ふ、是れでインソックス
三回目である、直にヤンドラターに依頼し、軍医
宿向に交際の上修繕、いかんとも合せの事にした。
午し初めに ~~chatter~~ cookies を買つて置いてから
飯の代りに喰つて呉れは良い。
午後検閲将軍のいっか来たつたか、これは南兵
士の隊停官連であつて下検分だったと云ふ。
灰土お食ひ、ハワイ空襲実見談か三人の僧侶
及び一名の通師に依つて演ぜられん。日午空軍の